

- 問1 北海道の農業において、十勝平野などを中心に大規模に栽培されている「てんさい」の生産背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。 | 2. 水はけのよいシラス台地の特性を活かし、寒冷地でも育つよう品種改良された。 | 3. 亜熱帯の気候に適しており、かつては沖縄で栽培されていたものが伝わった。 | 4. 温暖な気候を好む性質を持つため、夏場の長い日照時間を活かして栽培される。 |
|--|---|--|---|
- 問2 北海道の石狩平野で見られる「泥炭地」の土地改良について、その目的と仕組みを説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 山がちな地形で平地が少ないため、斜面を階段状に切り開いて石垣で固定し、日当たりの良さを活かしてみかんを栽培するため。 | 2. 火山灰が降り積もった水持ちの悪い土地に、粘土質の土を混ぜ合わせることで、水田に必要な水を蓄えられるようにするため。 | 3. 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。 | 4. 砂丘が広がる乾燥した土地に、スプリンクラーなどの灌漑設備を整え、らっきょうやスイカなどの栽培を可能にするため。 |
|---|--|---|--|
- 問3 面積が約83,424平方キロメートルと都道府県で最大であり、多くの外国人観光客も訪れる北海道において、2005年に世界自然遺産に登録された半島はどこか。周辺にはラムサール条約に登録された湿原も存在し、豊かな生態系が守られている。（2017年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 積丹半島 | 2. 根室半島 | 3. 知床半島 | 4. 下北半島 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問4 北海道の工業は、広大な農地で生産された農産物や、豊かな海でとれた水産物を原料とする分野が盛んです。2010年の製造品出荷額の内訳において、金属工業（13.9%）や化学工業（21.1%）を上回り、35.7%を占めて最大部門となっている工業の種類として、最も適切なものを選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 金属工業 | 2. 食品工業 | 3. 機械工業 | 4. 化学工業 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問5 札幌において、冬（12月～2月）の降水量が東京などの太平洋側の都市に比べて多くなる理由を、地理的な背景から説明したものとして正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------|--|--|-------------------------------|
| 1. 冬に湿った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。 | 2. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した風が、太平洋上で水分を蓄えて戻ってくるため。 | 3. 暖流である対馬海流から蒸発した水蒸気が、北東の季節風によって運ばれるため。 | 4. 冬に湿った南東の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。 |
|-------------------------------|--|--|-------------------------------|
- 問6 北海道の石狩平野など、かつて植物が十分に分解されずに積み重なった湿地が広がっていた地域において、農業を可能にするために行われた土地改良の説明として、最も適切なものはどれですか。なお、この地域では耕地面積のほぼすべてが畑や牧草地として利用されています。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大規模なダムを建設して灌漑用水を確保し、もともと乾燥していた土地を水田へと変えるための水路を整備した。 | 2. 他の土地から性質の異なる土を運び入れる「客土」を行い、あわせて排水施設を整備して土地を乾かした。 | 3. 気温の低さを克服するために、農地の周囲に防風林を設置し、ビニールハウスなどの温室栽培のみに特化した。 | 4. 海岸線を大規模に埋め立てる「干拓」を行い、塩分を抜くことで大規模な機械化農業に適した土地を造成した。 |
|--|---|---|---|
- 問7 北海道の農業は、農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広いことが特徴です。このような土地条件のもとで行われている農業のあり方について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 寒冷な気候による被害を防ぐため、耕地面積を小さく抑え、小規模で多品目な栽培を行っている。 | 2. 土地の生産性を高めるために、多くの労働力を投入する労働集約的な稲作が広く行われている。 | 3. 広大な農地を効率的に管理するため、大型機械を活用した大規模な機械化農業が展開されている。 | 4. 限られた土地から高い収益を得るため、ビニールハウスなどを活用した施設園芸農業が中心となっている。 |
|---|--|---|---|
- 問8 北海道の北端に位置し、中心部に利尻山という火山をもつ人口約5000人の島々では、その豊かな自然景観が国立公園に指定されています。この地域の自然環境を活かした観光業とともに、古くから地域経済を支えてきた、高級ブランドとしても名高い特徴的な産業はどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------|------------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 1. 温暖な気候を利用したサトウキビの生産と加工 | 2. 冷涼な夏の気候を活かしたレタスなどの高原野菜の栽培 | 3. 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業 | 4. かつての金山跡を中心とした歴史的遺産による観光開発 |
|--------------------------|------------------------------|--------------------------|------------------------------|
- 問9 北海道の知床（斜里町など）では、1980年の知床横断道路の開通などをきっかけに、1990年代には観光客数が180万人に達するほど急増しました。これにともなう環境の変化と、その対策として行われた取り組みの説明として最も適切なものはどれですか。（2022年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 世界自然遺産への登録を維持するために、2007年以降は一切の観光利用を禁止し、研究者以外の立ち入りを厳格に制限する方針に転換した。 | 2. 観光客が減少したことで地域経済が衰退したため、2005年に世界自然遺産に登録されたことを機に、新たな大型道路を建設して観光客の呼び戻しを図った。 | 3. 1990年代の急激な観光客増加に対応するため、自然保護よりも利便性を優先し、知床半島の奥地まで自由に自動車で移動できる制度を強化した。 | 4. 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。 |
|--|---|--|--|
- 問10 札幌市の中心部で、道路が垂直・水平に交わり区画が整理された「格子状の街路」が採用された背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 広場を中心に道路が四方八方へ伸びる、中世ヨーロッパの都市計画をそのまま導入したため。 | 2. 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。 | 3. 自然発生的に形成された集落が、人口増加に伴って地形に合わせて四方に拡大していったため。 | 4. 江戸時代の城下町の構造を引き継ぎ、敵の侵入を防ぐために見通しの良い道路を配置したため。 |
|---|--|--|--|
- 問11 北海道の十勝平野などで見られる、一つの耕地をいくつかの区画に分け、年度ごとにジャガイモ、小麦、てん菜（ビート）、豆類などの異なる作物を順番に栽培する農業手法を何といいますか。（2024年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 1. 輪作 | 2. 二毛作 | 3. 転作 | 4. 二期作 |
|-------|--------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。	てんさいは寒冷な環境でよく育つ植物であり、日本のなかでは冷涼な気候を持つ北海道が栽培の適地です。そのため、全国の収穫割合を示した資料などでも北海道が100%を占めるという極めて特徴的な分布を示します。砂糖の原料としてだけでなく、輪作体系の一翼を担う作物としても重要です。
問2	答え 3 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。	泥炭地は寒冷な気候の影響で植物が腐りきらずに堆積した土地で、スポンジのように水分を大量に含んでいます。このため、農業を行うには「客土」によって土壌を入れ替え、さらに排水路を整備して余分な水分を取り除く必要がありました。他の選択肢にある「火山灰地」は関東地方や九州地方、「砂丘」は鳥取県などの山陰地方、「段々畑でのみかん栽培」は愛媛県や和歌山県などの気候と地形を活かした取り組みです。
問3	答え 3 知床半島	北海道の北東部に位置する知床半島は、流氷がもたらすプランクトンを起点とした海と陸の豊かな食物連鎖が評価され、世界自然遺産に登録されました。また、北海道には釧路湿原などラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録された湿地が数多く存在します。
問4	答え 2 食品工業	北海道では、大規模な経営が行われている農業や盛んな漁業によって得られた豊富な産物を活用した工業が発達しています。他の地方に比べて、地元の農産物や水産物を加工して出荷する食品工業の割合が非常に高いのが特徴です。
問5	答え 1 冬に湿った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。	日本の冬はシベリア高気圧から北西の季節風が吹きます。この風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、北海道の日本海側に位置する札幌などに雪をもたらします。そのため、冬の時期に晴天が多く降水量が少ない太平洋側の都市と比較して、札幌では冬の降水量（降雪量）が多くなるという因果関係が生じます。
問6	答え 2 他の土地から性質の異なる土を運び入れる「客土」を行い、あわせて排水施設を整備して土地を乾かした。	石狩平野などに広がる泥炭地は、水はけが悪く農業には不向きな土地でした。明治時代以降、この土地を利用するために、他の場所から肥沃な土を運び込む「客土（かくど）」や、網目状に溝を掘るなどの「排水施設」の整備が行われました。これに加えて、寒冷な気候でも育つような「作物改良」が進められたことで、現在は広大な畑作・酪農地帯へと発展しました。
問7	答え 3 広大な農地を効率的に管理するため、大型機械を活用した大規模な機械化農業が展開されている。	北海道の農業は、一人あたりの耕地面積が広いことから、人力による作業ではなく機械の力を借りる必要があります。そのため、大型トラクターなどの導入が進んでおり、他地域に見られる労働集約的な農業や施設園芸農業とは異なり、広大な土地を少人数で管理する大規模な機械化農業が確立されています。
問8	答え 3 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業	利尻島や礼文島は、美しい火山（利尻山）を中心とする景観から利尻礼文サロベツ国立公園に指定されています。この地域では、冷たい海流に育まれた良質な昆布が「利尻昆布」として全国的なブランドとなっており、漁業や養殖業が島にとって欠かせない基幹産業です。近年は、この伝統ある産業を維持するために、若手漁師の育成などの後継者支援も積極的に行われています。
問9	答え 4 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。	知床では、道路の開通によってアクセスが向上したことで観光客が急増し、貴重な生態系や景観が損なわれることが課題となりました。これを受け、2005年の世界自然遺産登録の前後から、特定の時期のマイカー規制やエコツーリズムの推進など、自然を「守る」と「利用する」ことを両立させる持続可能な取り組みが続けられています。
問10	答え 2 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防衛上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。
問11	答え 1 輪作	同じ土地で同じ作物を作り続けると、土壌の養分が偏ったり病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。これを防ぎ、地力を維持するために複数の作物を計画的に組み合わせ栽培します。二毛作は1年間に2種類の異なる作物を育てること、二期作は同じ作物を1年に2回育てること、転作は米の生産調整などで別の作物を育てることを指します。